

包括システムによる健常高齢者のロールシャッハ基礎研究

中村 紀子
(創価大学大学院)

<要 旨>

65歳以上で、個人単位で生活を営む「在宅高齢者」111名を被検者として、ロールシャッハ・テストを包括システムによって施行し、健常成人の結果と比較した。これまで、高年齢化を老化や痴呆あるいは心理学的衰退現象として捉えることが多かったが、本研究では健常高齢者の健康度に焦点をあてて考察した。

結果から、健常高齢者は一般に対社会的対人的な場面では、控えめで萎縮した関わりしか取れなくなる傾向があり、心理学的に無力な状態に陥りやすいことが特徴であった。しかし、この傾向は心理的な活動を縮小させながらもそれで安定し、余計なエネルギーを使わずにより気楽に適応できていることを示していた。現実検討力は保たれており、高年齢化によっても長期記憶を伴う判断力は障害されない。特に85歳以上のサバイバー群が豊かな心理機能を示し、心理学的成熟のパターンを提示した。対照的に、75歳以上84歳の群に「高齢化危機」とみられる心理学的特徴が示された。

<キーワード>

ロールシャッハ・テスト、ノーマルデータ、健常高齢者、在宅高齢者

【はじめに】

OECD Health Data (2002)によれば、ドイツ、アメリカと比較しても、日本の平均寿命は男女ともに高くなっている(日本:女性 84.0歳、男性 77.1歳;ドイツ:女性 80.7歳、男性 74.7歳;アメリカ:女性 79.4歳、男性 73.9歳)。また、2003年には日本の75歳以上の人口が1000万人を超えた。このように、世界に先駆けて高齢化社会を迎える現状では、一般の臨床現場でも高齢者への適切な対応が必要とされてくる。その内容は高齢者特有の疾患から、加齢に伴う物忘れに至るまでさまざまであり、われわれはその重篤さを鑑別する必要にせまられ、具体的で現実的な対処方法や対応を示さなければならなくなっている。

高齢者を対象とした優れた先行研究は本邦には多い。しかし、1990年以降日本に本格的に導入された、包括システム(Comprehensive System)によるロールシャッハの健常高齢者研究はまだはない。包括システムによる高齢者のデータは、海外においてもフィンランドで男性61名の高齢者のノーマルデータが示されているに過ぎない。健常高齢者の心理機能を把握することは、日本の高齢者理解にとどまらず比較文化的な観点からも重要である。

本研究は、在宅で日常生活を営む一般の高齢者を「在宅健常高齢者」として、加齢に伴う心理機能の一般的な特徴を明らかにすることを目的とした。まず、健常高齢者群と健常成人群(1

8歳以上65歳未満、中村ら,2001)のロールシャッハの結果を比較し、高齢者群の精神的、心理的機能の特徴を明確にする。また、65歳以上の高齢者といっても、加齢による変化は段階的なものであると考えられるので、65歳以上の10年、75歳以上の10年、そして85歳以上の3群に分けて結果を比較検討する。各コホートの心理学的特長から、加齢による変化と健全な老化の特徴を明らかにする。

【方法】

1、被検者

東京近郊に住む、日本人健常高齢者65歳以上の男女111名(男性29名、女性82名)。111名の平均年齢は74.9歳±6.25(男性73.9歳、女性75.3歳)で男女に年齢による有意差はない。全員が在宅生活者である。居住形態が高齢者の心理機能に与える影響が大きいと考えられ、本研究では在宅生活者のみを被検者とした。病院、サナトリウム等の治療を目的とする収容施設で生活をする場合はもちろんのこと、老人ホームや高齢者専用のマンション、特殊施設などで生活する場合も調査対象から除外した。ここでいう在宅生活とは、居住を共にする人がいるか否かにかかわらず(一人暮らしから夫婦二人、孫子との共同生活、二世帯住宅など)、生活のための特別な介護なしに個人単位で生計を営む場合を指している。また、通常高齢者には持病があるとか、何らかの薬物療法を受けているなどの通院歴があることが多いが、健常高齢者の条件は「在宅生活を営む、これまで精神科通院歴またはカウンセリングを受けたことのない者」とした。研究目的

を理解した個人や、被検者に別の被検者となる可能性のある人を紹介してもらう方法によって(個人のネットワーク)、被検者を募集した。検査者が個別に被検者宅を訪問して検査を施行した。被検者宅での施行が不可能な場合は、代わりとなる近隣の集会所や事務所を利用した。

2、検査者

包括システムのロールシャッハの基礎訓練を最低70時間以上受けた、大学院修士以上の経験を持つ5名。データはすべて上級者がチェックした。また、検査者は全員が同じ調査手順で検査を施行し、データを収集するよう打ち合わせた。

3、調査内容

出身地や病歴、職歴、家族歴、婚姻歴、これまでの主な出来事などの個人情報を確認し、Exnerによって標準化された手続きに従ってロールシャッハを施行した(Exner,1992)。次に長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)で知的な能力のスクリーニングをし、最後にPOMS(Profile Of Mood States:ポムス)で最近1週間の気分を評価した。調査時間は、40分から120分だったが、平均60分から80分で終了した。ただし、本論文にはPOMSの結果は含まれていない。

4、除外例

ロールシャッハ・テストで総反応数が13以下だった2名と、長谷川式簡易知能評価スケールで、カットポイントを下回った3名の

合計5名をデータ・プールから除外し、有効被検者数を111名とした。

【結果】

1、111名の健常高齢者のロールシャッハ結果の主な変数を、表1に示した。この結果を240名（男性89名、女性151名）の日本人健常成人（平均年齢31.6歳±10.5歳）のロールシャッハの結果（中村ら、2001）と比較した。その結果、有意な差が認められたのは、R、W、S、DQ+、Zf、ブレンド、FQXo、EA、Mp、CF、SumColor、WSumC、(Hd)、H+(H)+Hd+(Hd)、(A)、Ad、(Ad)、Cg、Fi、GHRの20の変数であった（Cohen $d > .70$ ）。これらすべての変数が、健常高齢者群で有意に低い結果となった。

表2には、両群の「体験型」の分布を示した。表3には、いくつか複数のロールシャッハ変数の組み合わせによって、一定の条件に従って意味のある心理学的特徴を抽出した、6つの「特殊指標」を両群対比させて示した。

2、65歳から90歳までの25年間の加齢による変化の特徴を確認するために、111名を年齢によって3つのコホートに分けた。3群は、①65歳以上74歳以下の59名（男性17名、女性42名）、②75歳以上84歳以下の42名（男性10名、女性32名）、③85歳以上の10名（男性2名、女性8名）である。②と③、③と①の群間には、ラムダ、H、MQo、COP、MORの5つの変数に有意な差が認められた（ $p < .01$ ）。5つの変数ともに、③の85歳以上の群が①②群に比べて、ラムダが低い、Hが多い、MQoが高い、COPが多い、MORが少ないという結果であ

った。③群は②群と比べても（ $p < .01$ ）、①群と比べても（ $p < .05$ ）Ma、Sが多い結果となった。逆に②群は③群に比してZf、DQ+、Mが低い結果となった（ $p < .05$ ）。

【考察】

1、健常高齢者の健康度

外界に対する対処スタイル、行動様式の分布は健常成人と健常高齢者とはほとんど差はない（表2）。平均年齢75歳の健常高齢者と、平均年齢32歳の健常成人の「体験型」の分布が近似しているということは、心理的な構えやスタイル、好みのアプローチの仕方というのは安定性が高く、おそらく高年齢になっても変わりにくいということを示している。全体では、「よく考えてから行動し、慎重に対処する、内向型」の対処様式をとる割合が両群に一番多い。対処が場当たりの、見通しを持ったものになりやすく、内向型や外拡型の体験型よりも効果的に問題解決に至りにくいとされる回避型や、不定型が高齢者群に若干多いが、両群の差（3%）は大きくない。

次に、表3で特殊指標の該当する割合を検討した。PTI(Perceptual Thinking Index: 知覚と思考の指標)が該当する割合は、両群とも近似しており、思考力や判断力においては健常高齢者に特別な問題が見られなかった。

DEPI(Depression Index: 抑うつ指標)は、興味深い。なぜならば、健常成人の方がこの指標に該当する者が多かったからである。DEPI=5やDEPI=6に該当する割合は健常高齢者の3倍近く多い。健常成人群全体のほぼ

25%がDEPIに該当し、何らかの感情の苦悩や混乱の危機を経験していることを示した。一方、健常高齢者でDEPIに該当するのは合わせて10%以下であった。

反対に、CDI(Coping Deficit Index: 対処力不全指標)は、健常高齢者群の半数が該当した。この結果は特に、CDIのすべての条件がそろった場合(CDI=5)の該当率が健常高齢者群で23%と高く、健常成人群のおよそ5倍であった。大うつ病者を対象にした研究で津川ら(1997)が、抑うつは必ずしもDEPIに示されるとは限らず、DEPIとCDIの両指標を検討する必要性を指摘している。また、初回発症のうつ病群でCDIが該当する割合が高かったが、中でも高齢者にCDIが高くなる傾向があったと報告している。健常高齢者群のCDI傾向は、社会生活からの撤退や、それに伴う人的サポートや関わりの減少などからくる、自然発生的な心細さや、寂しさ、悲しみを含む気持ちの落ち込みや楽しめなさを表していると考えられる。これは、老年期における、健常老化のパターンのひとつと考えられる。

HVI(Hypervigilant Index: 警戒心過剰指標)は外界に対して、あるいは対人場面において、人々から距離をとり、たやすく親しまず、心理的な安全感を確保しようとする構えを示すが、これは健常成人群の方に多く、健常高齢者がその1/3ほどの低い結果となった。高齢者群で、対人的、対社会的な場面で「身構えるエネルギー」の投与が減少しているのは、健常高齢者の楽観主義傾向と考えられる。

表1の健常高齢者のロールシャッハ結果の変数と、健常成人と比較して有意な差があった20の変数は、「高齢者の特徴」として以下の3点にまとめることができる。

第一に、健常高齢者は、外界の情報を苦勞して念入りに取り入れる努力をしなくなり、知覚に投与するエネルギーが少なくなって、外界への関心や関与が狭まる傾向がある(R, Zf, DQ+, EA, W)。これは効率よく現実社会と関わる傾向とも考えられる。難しい認知知覚(H+(H)+Hd+(Hd), Mp, GHR)が減少し、わざわざ加工したり工夫したりせずわかりやすい知覚に落ち着きやすい((A)Ad(Ad))。外からの、社会的な評価をあまり気にしなくなる((Hd)Ad(Ad), Cg)。

第二は、人々と感情含みのコミュニケーションをひかえるようになり、自分の中に起こる複雑な思いを扱わなくなる傾向が示された(CF, SumColor, WsumC, ブレンド)。複雑な感情を扱わなくなる傾向や前述の外界に対するエネルギーの減少と関連するのが、否定的な感情経験や対立、対抗的な構え、意地をはることや、怒りを感じることの減少である(S, Fi)。

第三として、正確で、的確に現実を知覚する知覚の鋭さを欠いてくる傾向が示された(FQXo)。

健常高齢者のこのような3大特徴は、心理的に「縮小しながらも、効率よく安定した」機能を示すものと考えられる。特殊指標についての前述の考察とも合わせると、この傾向は社会との関わりを小さくしながら、余計なエネルギーを投与せず、喜怒哀楽も少なくなり、現実吟味が緩むものの現実をゆがめない

範囲のもので、心理学的「成熟」の傾向を示していると考えられる。

2、両群の共通点について

これまで両群の違いに注目して考察したが、両群に差のない特徴も考察したい。下仲ら（1991）による10年にわたる高齢者の追跡調査によれば、亡くなる2年以内のテストでは、FM反応の数が減少し、F%及びF-%が増えるとの報告がある。本研究では、健常高齢者は健常成人と変わらない動物運動反応（FM：高齢者平均3.97, 成人平均3.67）を示した。このFM反応は生命維持活動に直接関連する身体感覚や要求充足感と関連している。つまり、高年齢で元気があり、活気のある生活を営む人々には、健常成人と同様の「内発的動機づけ」が保たれているといえる。それは、自分がやりたいこと、やりたくないことが自分でわかっていて、自分の欲求や要求を感知して、その満足を成就しようと外界に働きかけるエネルギーがあることを示している。確かに、考察1でも述べたように、的確で正確に認知知覚する能力、知覚の厳密さには欠けるが、高齢者群も現実を歪めないでおおむね良好な知覚（WA%=72, WDA%=78）を保っている。また、体験型のところで考察したように、高齢者群に回避型が多いとはいえず、むしろF反応の出現頻度だけをとれば健常高齢者の方が低い結果となっている（F: 高齢者平均8.93, 成人平均10.96）。このような結果の相違は、被検者の生活形態にあったと考えている。下仲らの被検者は、施設居住者であり、本研究での被検者は在宅生活者であった。在宅生活であったことが、高齢者群で

もおおむね現実検討能力を保ち、健常成人と同じ精神活動の原動力（FM）を保った状態を示したものとする。

3、老化は衰退ではない

最後に健常高齢者を3つのコホートに分けて比較した結果を考察する。最も健康度の高い心理機能を示したのは、「85歳以上」の10名であった。10名のうち8名が「よく考えてから行動する（内向型）」対処様式を持ち、外界に対する防衛的な構えが低く（ラムダ）、人々に関心を示して人とよく関わり（H, MQo, Ma, COP）、悲観的でなく、ネガティブに自己検閲をしない（MOR）ことがその特徴となっている。また、張るべき意地（S）があり、心理的な若さや張り、つっぱりを保っているといえる。

対照的に、「高齢化危機」ともいうべき年齢層が75歳から84歳までの間にあり、高年齢化の変化に対応するためか、中学生の14歳から16歳までの思春期にも特徴的な（中村ら, 1992）「心理的に防衛の高い構え」によって、外界との関わりに閉鎖的になる傾向がうかがえる（ラムダ：65歳以上平均1.13, 75歳以上平均1.45, 85歳以上平均0.5）。85歳以上に比べても、より若い65歳以上の世代と比べても、高齢化危機に直面していると思われる75歳以上は、認知的に不活発（Zf, DQ+, M）である。これらの特徴は、心身の変化や、社会的環境や関わりの変化、喪失体験（対象喪失や健康喪失）などを経験することが多いのか、ライフステージ最後の「迷いの時代」がこの75歳から84歳の時期にあることを示しているようである。

4、今後の課題

85歳以上健常高齢者が最も健康度が高く、「心理学的サバイバー」であり、健常老化の成熟のありようを示していた。しかし、この結果はわずか10名の被検者の結果であり、被検者数を増やして確かめる必要がある。

また、「在宅高齢者」の健康な心理機能の重要な特徴として、「内発的動機づけが高い」としたが、施設収容や、治療目的の生活を営む高齢者を被検者と比較検討して結論づける必要がある。

最後に、健常高齢者と健常成人の結果を比較検討したが、サンプル数はそれぞれ111名と240名で偏りがあった。両群共に240名にして考察する必要がある。

参考・引用文献

ファイザー製薬株式会社(2002). 21世紀の保健医療を考える. ファイザーフォーラム, No. 70

平田富美子(1969). 老人のロールシャッハ反応の研究. ロールシャッハ研究, 11, 57-66

Light, B. H., & Amick, J. H. (1956). Rorschach responses of normal aged. *Journal of Projective Techniques*, 20, 185-195

中村紀子・佐藤豊・藤岡淳子ほか. (1992) Exner法による児童青年期のロールシャッハ・ノーマルデータの基礎研究. 安田生命社会事業団研究助成論文集, 28, 70-75

Prados, M., & Fried, E. G. (1974). *Personality*

structure in the older age groups. *Journal of Clinical Psychology*, 17, 302-304

Shaffer, T. W. & Erdberg, P. (2001) An International Symposium on Rorschach Nonpatient Data: Worldwide Findings. Society for Personality Assessment- Philadelphia-

下仲順子(1978). 加齢及び精神老化よりみた老人のロールシャッハ反応. ロールシャッハ研究, 20, 69-84

Shimonaka, Y. Nakazato, K. (1991). Aging and terminal changes in Rorschach response among the Japanese elderly. *J Pers Assess*, 57(1), 10-18

Sugiyama, Y., Okuse, S., & Daiso, I. (1978). A follow-up study of the Rorschach test. *Geropsychology*, 4, 32-36

田形修一(1979). ロールシャッハ・テストによる精神老化尺度の作成. ロールシャッハ研究, 21, 57-68

津川律子・浜田さつき・中野明德(1997). ロールシャッハ・テストの包括システムにおけるうつ病指標及び対処力不全指標の分析; 心理臨床学研究, 15, 4, 361-370

Penner, J. W. (1981). Rorschach indices of disordered thinking in elderly nonpatient adults. *Dissertation Abstracts International*, 41(1-B), 363B-364B

表 1. 健常高齢者ロールシャッハ変数 (n=111)

<i>Variable</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>Freq</i>	<i>Mdn</i>	<i>Mode</i>	<i>SK</i>	<i>KU</i>
<i>Age</i>	74.93	6.25	65.00	90.00	111	74.00	71.00	0.63	-0.11
<i>Education (Years)</i>	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00	0.00	----	----
<i>R</i>	20.23	6.96	14.00	51.00	111	18.00	15.00	1.91	4.04
<i>W</i>	7.83	3.81	2.00	20.00	111	7.00	5.00	0.67	0.44
<i>D</i>	9.33	5.36	0.00	27.00	110	9.00	9.00	0.81	0.64
<i>Dd</i>	3.07	[3.11]	0.00	22.00	92	2.00	2.00	2.65	12.04
<i>S</i>	1.59	[1.83]	0.00	12.00	74	1.00	0.00	2.24	8.94
<i>DQ+</i>	5.21	2.93	0.00	14.00	107	5.00	5.00	0.48	0.21
<i>DQo</i>	13.60	6.46	4.00	45.00	111	12.00	8.00	1.65	4.53
<i>DQv</i>	1.24	[1.39]	0.00	6.00	69	1.00	0.00	1.31	1.61
<i>DQv/+</i>	0.18	[0.45]	0.00	2.00	17	0.00	0.00	2.54	6.02
<i>FQX+</i>	0.01	[0.10]	0.00	1.00	1	0.00	0.00	10.53	111.00
<i>FQXo</i>	10.29	3.37	4.00	21.00	111	10.00	10.00	0.64	0.55
<i>FQXu</i>	4.05	2.71	0.00	14.00	110	3.00	3.00	1.19	1.56
<i>FQX-</i>	5.66	3.98	0.00	29.00	109	5.00	5.00	2.30	10.06
<i>FQXnone</i>	0.23	[0.67]	0.00	4.00	15	0.00	0.00	3.58	13.83
<i>MQ+</i>	0.01	[0.10]	0.00	1.00	1	0.00	0.00	10.53	111.0
<i>MQo</i>	2.36	1.76	0.00	8.00	98	2.00	2.00	0.88	0.49
<i>MQu</i>	0.36	0.60	0.00	2.00	33	0.00	0.00	1.45	1.09
<i>MQ-</i>	1.05	[1.38]	0.00	8.00	60	1.00	0.00	2.07	6.06
<i>MQnone</i>	0.09	[0.39]	0.00	3.00	7	0.00	0.00	5.33	32.06
<i>Squal-</i>	0.96	[1.33]	0.00	9.00	60	1.00	0.00	2.63	11.46
<i>M</i>	3.87	2.78	0.00	14.00	104	3.00	3.00	1.09	1.28
<i>FM</i>	3.97	3.01	0.00	18.00	104	3.00	1.00	1.37	3.45
<i>m</i>	1.10	1.42	0.00	7.00	58	1.00	0.00	1.56	2.79
<i>FC</i>	1.38	1.39	0.00	5.00	74	1.00	0.00	0.97	0.30
<i>CF</i>	0.86	1.24	0.00	6.00	52	0.00	0.00	1.96	4.28
<i>C</i>	0.20	[0.57]	0.00	3.00	15	0.00	0.00	3.31	11.47
<i>Cn</i>	0.00	[0.00]	0.00	0.00	0	0.00	0.00	----	----
<i>SumColor</i>	2.43	2.01	0.00	8.00	89	2.00	1.00	0.60	-0.46
<i>WSumC</i>	1.84	1.77	0.00	8.00	89	1.50	0.00	1.17	1.03
<i>Sum C'</i>	1.18	[1.43]	0.00	8.00	64	1.00	0.00	1.72	4.24
<i>Sum T</i>	0.21	[0.54]	0.00	3.00	17	0.00	0.00	2.91	8.89
<i>Sum V</i>	0.19	[0.64]	0.00	4.00	11	0.00	0.00	3.84	15.76
<i>Sum Y</i>	0.34	[0.74]	0.00	5.00	26	0.00	0.00	3.11	13.64
<i>SumShd</i>	1.92	2.33	0.00	11.00	74	1.00	0.00	1.75	3.22
<i>Fr+rF</i>	0.07	[0.35]	0.00	3.00	6	0.00	0.00	6.31	46.69
<i>FD</i>	0.51	[0.89]	0.00	4.00	36	0.00	0.00	1.98	3.87
<i>F</i>	8.93	5.10	2.00	34.00	111	7.00	5.00	1.53	4.18
<i>(2)</i>	7.80	3.72	1.00	22.00	111	7.00	6.00	0.94	1.57
<i>3r+(2)/R</i>	0.40	0.15	0.07	0.71	111	0.40	0.47	-0.03	-0.58
<i>Lambda</i>	1.19	1.46	0.08	8.50	111	0.67	0.36	2.98	9.71
<i>FM+m</i>	5.07	3.47	0.00	18.00	107	5.00	1.00	0.90	0.93
<i>EA</i>	5.71	3.65	0.00	17.50	108	5.00	3.00	0.86	0.54
<i>es</i>	6.99	4.62	0.00	23.00	109	6.00	8.00	0.98	1.09
<i>D Score</i>	-0.28	1.56	-5.00	4.00	66	0.00	0.00	0.27	1.49
<i>AdjD</i>	-0.09	1.49	-5.00	4.00	64	0.00	0.00	0.36	1.76
<i>Active</i>	4.61	3.20	0.00	15.00	106	4.00	5.00	0.87	0.68
<i>Passive</i>	4.34	3.16	0.00	16.00	104	4.00	3.00	1.03	1.36
<i>Ma</i>	2.23	2.19	0.00	9.00	85	2.00	1.00	1.11	0.53
<i>Mp</i>	1.66	1.56	0.00	8.00	82	1.00	0.00	1.32	2.61
<i>Intellect</i>	1.26	2.29	0.00	11.00	50	0.00	0.00	2.55	6.28
<i>ZF</i>	10.67	4.09	2.00	23.00	111	10.00	10.00	0.57	1.25
<i>Zd</i>	-1.01	4.70	-15.50	13.00	106	-0.50	-1.00	-0.21	1.00
<i>Blends</i>	2.18	2.35	0.00	10.00	77	1.00	0.00	1.17	0.78
<i>Blends/R</i>	0.11	0.12	0.00	0.50	77	0.07	0.00	1.20	1.13

<i>CSBlends</i>	0.26	[0.58]	0.00	3.00	23	0.00	0.00	2.69	8.27
<i>Afr</i>	0.48	0.18	0.17	1.00	111	0.45	0.36	0.53	-0.28
<i>Populars</i>	4.70	1.77	0.00	9.00	110	5.00	4.00	0.22	-0.04
<i>XA%</i>	0.72	0.13	0.33	1.00	111	0.72	0.81	-0.36	-0.20
<i>WDA%</i>	0.78	0.12	0.42	1.00	111	0.81	0.88	-0.85	0.52
<i>X+%</i>	0.52	0.14	0.21	0.93	111	0.50	0.47	0.28	-0.12
<i>X-%</i>	0.27	0.13	0.00	0.61	109	0.27	0.28	0.24	-0.44
<i>Xu%</i>	0.19	0.10	0.00	0.47	110	0.19	0.19	0.41	-0.25
<i>Isolate/R</i>	0.15	0.13	0.00	0.71	89	0.14	0.00	1.08	2.15
<i>H</i>	2.43	1.95	0.00	9.00	97	2.00	2.00	1.17	1.36
<i>(H)</i>	0.79	0.85	0.00	4.00	64	1.00	0.00	1.21	2.11
<i>Hd</i>	1.05	[1.19]	0.00	7.00	68	1.00	0.00	1.74	5.01
<i>(Hd)</i>	0.29	[0.59]	0.00	3.00	25	0.00	0.00	2.20	4.83
<i>Hx</i>	0.17	[0.63]	0.00	4.00	10	0.00	0.00	4.28	19.24
<i>All HCont</i>	4.56	3.10	0.00	14.00	107	4.00	3.00	0.88	0.62
<i>A</i>	9.45	4.33	2.00	26.00	111	9.00	5.00	1.08	2.12
<i>(A)</i>	0.19	[0.46]	0.00	2.00	18	0.00	0.00	2.43	5.43
<i>Ad</i>	2.02	[1.90]	0.00	10.00	93	2.00	1.00	1.94	4.93
<i>(Ad)</i>	0.05	[0.21]	0.00	1.00	5	0.00	0.00	4.44	18.11
<i>An</i>	0.40	[0.78]	0.00	4.00	30	0.00	0.00	2.35	5.95
<i>Art</i>	0.61	1.08	0.00	6.00	39	0.00	0.00	2.37	6.64
<i>Ay</i>	0.16	[0.42]	0.00	2.00	16	0.00	0.00	2.59	6.42
<i>Bl</i>	0.05	[0.26]	0.00	2.00	5	0.00	0.00	5.39	31.51
<i>Bt</i>	1.80	1.69	0.00	6.00	78	1.00	0.00	0.66	-0.57
<i>Cg</i>	1.59	1.67	0.00	8.00	81	1.00	1.00	1.58	2.76
<i>Cl</i>	0.09	[0.32]	0.00	2.00	9	0.00	0.00	3.73	14.64
<i>Ex</i>	0.05	[0.21]	0.00	1.00	5	0.00	0.00	4.44	18.11
<i>Fi</i>	0.32	[0.56]	0.00	2.00	30	0.00	0.00	1.58	1.61
<i>Food</i>	0.65	[0.96]	0.00	6.00	47	0.00	0.00	2.20	7.90
<i>Ge</i>	0.13	[0.41]	0.00	2.00	11	0.00	0.00	3.41	11.48
<i>Hh</i>	0.51	0.92	0.00	5.00	36	0.00	0.00	2.32	6.35
<i>Ls</i>	0.45	0.90	0.00	5.00	30	0.00	0.00	2.53	7.49
<i>Na</i>	0.18	[0.45]	0.00	2.00	17	0.00	0.00	2.54	6.02
<i>Sc</i>	0.96	[1.18]	0.00	6.00	60	1.00	0.00	1.48	2.50
<i>Sx</i>	0.03	[0.16]	0.00	1.00	3	0.00	0.00	5.91	33.58
<i>Xy</i>	0.03	[0.16]	0.00	1.00	3	0.00	0.00	5.91	33.58
<i>Idio</i>	1.00	[1.18]	0.00	5.00	63	1.00	0.00	1.36	1.78
<i>DV</i>	0.53	[0.81]	0.00	4.00	42	0.00	0.00	1.69	3.08
<i>INCOM</i>	1.58	[1.46]	0.00	6.00	84	1.00	1.00	1.07	0.75
<i>DR</i>	0.76	[1.43]	0.00	7.00	36	0.00	0.00	2.35	5.66
<i>FABCOM</i>	0.73	[1.09]	0.00	6.00	49	0.00	0.00	2.08	5.36
<i>DV2</i>	0.00	[0.00]	0.00	0.00	0	0.00	0.00	----	----
<i>INC2</i>	0.01	[0.10]	0.00	1.00	1	0.00	0.00	10.53	111.00
<i>DR2</i>	0.05	[0.35]	0.00	3.00	3	0.00	0.00	7.13	53.10
<i>FAB2</i>	0.05	[0.25]	0.00	2.00	4	0.00	0.00	6.10	40.20
<i>ALOG</i>	0.08	[0.43]	0.00	4.00	6	0.00	0.00	7.49	64.61
<i>CONTAM</i>	0.01	[0.10]	0.00	1.00	1	0.00	0.00	10.53	111.00
<i>SUM6</i>	3.79	3.16	0.00	16.00	101	3.00	1.00	1.16	1.27
<i>Lv2</i>	0.11	[0.55]	0.00	4.00	5	0.00	0.00	5.55	32.29
<i>WSUM6</i>	10.02	10.60	0.00	73.00	101	7.00	2.00	2.63	11.12
<i>AB</i>	0.24	[0.88]	0.00	5.00	10	0.00	0.00	3.87	14.75
<i>AG</i>	0.30	0.70	0.00	3.00	20	0.00	0.00	2.33	4.52
<i>COP</i>	1.12	1.28	0.00	5.00	62	1.00	0.00	1.02	0.37
<i>CP</i>	0.03	[0.16]	0.00	1.00	3	0.00	0.00	5.91	33.58
<i>GHR</i>	2.86	1.82	0.00	9.00	102	3.00	2.00	0.75	1.07
<i>PHR</i>	2.78	2.40	0.00	13.00	97	2.00	2.00	1.53	3.23
<i>MOR</i>	0.64	[0.95]	0.00	4.00	46	0.00	0.00	1.68	2.50
<i>PER</i>	0.42	[0.78]	0.00	4.00	32	0.00	0.00	2.12	4.81
<i>PSV</i>	0.14	[0.42]	0.00	2.00	13	0.00	0.00	3.07	9.20

表2. 体験型の分布

体験型	健常成人 (n=240)		健常高齢者 (n=110)	
内向型	101	41%	40	36%
超内向型	67	27%	30	27%
不定型	59	24%	30	27%
外拡型	16	6%	5	5%
超外拡型	7	3%	3	3%
回避型	73	29%	36	32%

表3. 特殊指標の割合

特殊指標	健常成人 (n=240)		健常高齢者 (n=111)	
PTI=5	0	0%	1	1%
PTI=4	8	3%	6	5%
PTI=3	38	16%	19	17%
DEPI=7	2	1%	1	1%
DEPI=6	18	8%	3	3%
DEPI=5	37	15%	6	5%
CDI=5	13	5%	25	23%
CDI=4	56	23%	30	27%
S-Constellation 該当	6	3%	0	0%
HVI 該当	63	26%	10	9%
OBS 該当	0	0%	0	0%